

2021/12/26 No.31 東京支部事務局

## コロナ沈静下での支部活動報告

### 撮影会、特別研究会、作品展

猛威をふるった新型コロナも漸く沈静化の兆しが見え、JNP 東京支部でも、徐々に支部活動が正常化に向かって動き出しました。

10月上旬の「志賀高原撮影会」、11月下旬の「林惣一先生を招いての特別研究会」、および「東京支部第19回作品展」を無事成功裏に終えることができました。これも偏に支部会員の皆様のご協力の賜物と感謝しています。

#### 特別研究会の報告

予てより、定例研究会とは異なる講師を招いて特別研究会を実施する予定ではありましたが、新型コロナの影響で実施出来ず、やっと今回実現しました。

会場；ケンコー・トキナー中野

出席者：18人+1（講師）

写真家により、いろいろな撮影のアプローチや、写真の見方、考え方があり、それらに触れる良い機会となります。我々にとって新たな刺激になると思われれます。特別研究会は、前半が支部員の作品（1人2点）の講評、後半が先生の講演と作品の紹介としました。今回お願いした林惣一先生は、会社を退職した60歳から本格的に写真を始められました。この点、我々の多くと共通しており、大変興味がありました。

先生のお話の要点：

- 1) 写真を始めたころ、どう写真を撮ったら良いか分からなかった。そこで、
  - ① 写真展巡りをした。
  - ② 写真の見方は、何も考えずに写真だけを見る。
    - ・好きな写真を見つける。
    - ・撮りたい写真を見つける。
  - ③ 本の力を借りる。
    - ・写真だけを見る。好きな写真、撮りたい写真を探す。
    - ・活字（解説）はすぐには見ない。

見るとしても、2～3週間後。

2) 撮影に行くときの事前準備として、撮影場所の日の出、日の入りの時間と方位を調べておく。

3) 撮影時の注意

- ・4角に注意、4辺に注意
- ・撮影位置はいろいろ変えてみる。
- ・何を撮るかの意識
- ・前景・中景・遠景を意識
- ・縦構図は間抜け（中景抜け）にならないよう注意
- ・光と影の利用、色々撮っておく。

4) 写真は次の4点が重要

- ① 画面の構成力
- ② 技術力
- ③ 着眼点  
写真展向きとコンテスト向きに分かれる
- ④ 独創性

5) コンテストについて

- ・審査 1点1秒
- ・着眼点と独自性が重要  
落選しても諦めずに続けてほしい。

などなど、写真撮影にとって基礎的で重要な示唆に富むお話をいただきました。基本的であるがゆえにかえって新鮮な感じを受けました。写真展、写真雑誌の見方も教えられるものがありました。参加者にも大変好評でした。

#### 作品展の報告

11月26日（金）から12月2日（木）にかけて、東京支部第19回作品展を開催しました。御蔭様で、大変好評でした。

開催するにあたって、野間芳子さんには、DM作成や写真入り目録作成に大変ご苦勞をおかけしました。また、副担当の藤野さんには、作品集め、当番調整、キャプション作成、費用総括など大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。

来年は20周年の記念作品展です。「日本の風景」と「東京の風景」との二本だてを考えております。作品の準備を宜しくお願い致します。（文責 井上武夫）

## 第19回作品展を終えて

11月26日から12月2日にかけて、JNP東京支部第19回作品展「秀麗彩美」を、富士フォトギャラリー一銀座にて、開催しました。

新型コロナが小康状態ではありますが、まだまだ大きな影響下にあるにも関わらず、多数の写真愛好家の皆様、JNP本部及び各支部の方々、写真家の方々にご来場を戴きました。ご来場者数は、実カウント510名、自動カウント1284名で、コロナ環境下を考慮すれば、大変多くの方々にご来場戴けたものと思います。心より感謝申し上げます。

主な来場者の方々は、

JNP指導会員の川隅功さん、辰野清さん、萩原史郎さん、柴馬智太郎さん、理事の前山和敏さんなどの方々。JNP各支部から、神奈川支部長 久保田隆彦さん、埼玉支部長 上野耕彦さん、千葉支部長 小川英信さん、他各近隣支部の会員の方々。

写真家の山口高志さん、林惣一さん、福田健太郎さん、秦達夫さん、萩原れい子さん、笹生公希さん、大津基さん、喜多規子さん、南佐和子さんなどの方々。

お名前を掲載出来ない程多くの方々にご来場戴き、ご感想、ご講評を戴きました。

多くの方々のご来場を戴き、大変有意義で、良い作品展を開催することができました。

この場をお借りして、改めて感謝、御礼申し上げます。

有難うございました。 (文責：藤野治雄)



山口先生を囲んで



林惣一さんと

## DMなど資料作りを終えて

今回初めて作品展の「応募作品一覧」「DMはがき」「作品目録(図録)」の作成を担当させていただきました。今まで何気なく作品展で手にしていたDMはがきや図録ですが、作成にこんなにも手間暇がかかっていたのだと改めて思いました。

作成段階では、会員の皆さまの素晴らしい作品約130枚を拝見し、居ながらにして写真展巡りをしているかのように大変勉強になりました。

そして1人5枚の候補作品の中から、山口高志先生がどれを選択されたのかも興味深いものがありました。

「応募作品一覧」はExcelで表を作成し、そこへ写真を入れていく簡単な作業ですが、印刷会社に出すDMと図録は画像編集ソフトPhotoshopを使っての作業です。Photoshopは、私が今回初めて使うことになったアプリなので、取り敢えず操作手順をYouTubeの動画で確認しました。YouTubeについついはまってしまい、視聴回数は100回を越えました。

一番苦労した点は色合いです。RGB(赤緑青)モードの写真を印刷インクのCMYK(シアン・マゼンタ・イエロー・黒)4色モードに変換すると色がくすんでしまいます。つまり彩度と明度の調整を的確にしないと、皆さまの写真の色と懸け離れてしまいます。井上支部長にもこの点、色々ご指導いただきましたが、なかなか満足いかず、ちょっとご不満な方もいらっしゃるのではないかと心配しております。

たまたま、DMはがきに掲載する2枚のうち1枚が私の写真が選定されていたので、自分の写真で色々と

試して練習することができました。裏面はモノクロ印刷設定、塗り足しなどの印刷技法も取り入れて作成してみました。

最後になりましたが、井上支部長、作品展担当の藤野さんほか、色々な方々にご指導いただき、感謝の気持ちで一杯です。改めてお礼申し上げ、ご報告とさせていただきます。 (文責 野間芳子)

## 2021年度 秋の撮影会を終えて

10月7日～9日 「秋の志賀高原」をテーマに2泊3日の撮影会が行われました

ガイドは写真家の萩原れい子さん。宿泊地は志賀高原の石の湯ロッジで、昨年冬の撮影会に続き2回目です。感染対策も十分に行われていました。

参加者は 井上さん 小川さん 佐々木さん 佐藤直芳さん 須加尾さん 陶山さん 戸張真さん 戸張伸子さん 野間清治さん 野間芳子さん 藤野さん 菅澤さん の12名。

ロッジのマイクロバスで 琵琶池、一沼、のぞき、渋峠、木戸池、平床、裏のぞき、弦が池、牛池、毛無峠、カヤノ平、蓮池、三角(みすま)池等を巡り撮影を楽しみました。10月の下旬なので当初 標高の高いエリアの紅葉をねらう予定でしたが、志賀高原の紅葉がすすんでいて良い状況で撮影を楽しめました。

(菅澤さん報告書より)



## 秋の志賀高原撮影会に参加して

2年前、心臓手術をし、その後撮影に行っていない為、皆さんについて行けるかどうか心配でしたが、思いきって今回参加してみました。

10月7日の12時、志賀高原石の湯ロッジに集合し、オリエンテーションを行った後、午後1時、ロッジを出発、琵琶池、一沼、横手山のぞき(夕景)へと向かう。

今回の撮影指導は萩原れい子さんで、非常に若い、親しみやすい先生でした。

琵琶池、一沼の紅葉はちょうど見ごろを迎えたところで、非常に色鮮やかでした。皆さん、夢中になって撮影。横手山ののぞきの夕景は、残念ながら厚い雲に覆われて、夕景を拝むことはできませんでした。

翌日、渋峠からの朝焼け、木戸池の紅葉を撮影。一旦ロッジに戻り、朝食後、倒木が池に沈んでいる緑色の神秘的な雰囲気牛池、毛無峠と万座の夕景を撮りに再出発。

早朝の渋峠は相変わらず、三脚を立てる隙間が無い程、カメラマンで混雑していました。峠に到着した時は雲に覆われていましたが、徐々に雲も取れ、素晴らしい朝焼けになりました。残念ながら、万座の夕景は雲に覆われ、撮れませんでした。

3日目は朝霧のカヤの平撮影に向け早朝に出発。撮影後ロッジに戻り朝食。その後 蓮池、三角池(みすまいけ)に向け出発。三角池の紅葉は幸運にも朝霧に覆われ、幻想的な景色でした。三角池での撮影を終え、12時頃、現地解散し、撮影会は無事終了しました。

横手山のぞきと万座の夕景は残念でしたが、3日間、天候にも恵まれ、色鮮やかな紅葉を堪能した撮影会でした。又、石の湯ロッジの食事也非常に素晴らしく、快適に寛げました。

参加する前は皆さんについて行けるか心配でしたが、何とか、無事ついて行けました。

やはり、仲間との撮影旅行はいいですね。非常に楽しい3日間の撮影旅行でした。

撮影会担当の菅澤さん、支部長の井上さんご苦労様でした。 (文責 小川 規)

## 二科会への道のり

この度 佐々木節子さんが二科会の会員になりました。これはたいへんな快挙だそうでお話しを伺いました。よくご存じの方もいらっしゃると思いますが、まず二科会について紹介させていただきます。

公益社団法人二科会は絵画、彫刻、デザインの3部門の総合美術展二科展を主催していましたが、1953年（昭和28年）二科会会長 東郷青児氏の発案により写真部を創設。

林忠彦、早田雄二、秋山庄太郎、大竹省二の4名が創立会員となり、全国47都道府県に支部を作り、国内最大級の公募展となっています。

二科会写真部の会友候補となるためには全国支部の支部員として3年以上在籍し、全国一般公募展で10回（現在8回）入選を重ねることが必要です。

会友から会員に推挙されるためにはさらに毎年の出展を10回（現在8回）重ねることが必要です。二科会は歴史が古く、特に地方に行くとなかなか権威があるそうです。（二科会HPより）

佐々木さんはご主人と共に35歳くらいから写真を撮り始めました。

最初にご主人が二科会入会を希望されていて、節子さんにも二科展に応募することを勧めたそうです。1年目、2年目は「おわら風の盆」で撮った作品で落選し、3年目から勉強会に入会。

3回目に北海道のタウシュベツの橋の作品で初入選をはたしました。その後 ご主人も入選をはたし、お二人で会友推挙を目指して勉強会を継続。それから20年間 根気と努力で続けてきそうです。竹内敏信先生と北海道へ撮影にいったり、海外にも撮影に行ったりして、風景を撮ることが大好きになりました。

北海道で撮った組写真「冬ひまわり」「冥界 赤い川」で入賞し会友に推挙されました。

会友から会員に推挙されるためには10回の入選が必要ですが入賞すると早くなります。

ご夫婦2人で撮影を楽しんでいらっしゃいましたが、残念なことに2年前ご主人が亡くなりました。

「二科の会員になることを目指してほしいが、会友の

ままでもいい。写真をやめないで続けてほしい」と言い残されたそうです。

佐々木さんはその言葉を心の支えにして写真を続け、快挙をなしとげました。

「今回会員になったことを1番喜んでほめてくれるのは、お墓の中の主人でしょう」と言って最後に微笑まれました。

お話しを伺い ご夫婦の絆を強く感じました。

これからも ますますのご活躍をお祈りいたします。

（文責 戸張伸子）

## 写友広場

2021年10月から12月の間には以下の方が入選、入賞されました

### ■風景写真祭2022

・美しい風景写真100人展

（入選）高橋清「幽境樹景」

・X t e n s i o n展

（入選）戸張真「月明かりに誘われて」

（入選）戸張伸子「孤高」

### ■第10回日本写真家連盟公募展 四季の彩り

（銀賞）太田桃子「深秋のころ」

（辰野清賞）藤野治雄「漸進秋波」

（入選）戸張伸子「朝霧染めて」

（入選）山田智一「雪しだれ」

### ■風景写真2021.11-12月号 単写真部門

（優秀作品賞）鈴木雅人「愛情」

### ■月刊フォトコン 2021年10月号

（入選）高橋清「春舞」

（文責 戸張伸子）

## 事務局より

新型コロナも沈静化してきてはいますが、オミクロン株なる新種が現れ、今後とも予断を許しません。

来年も慎重に状況を判断しながら、支部の運営を進めていきたいと思っております。

2022年の予定

★ 1月15日（土）総会

新春講演 ケンコー・トキナー 田原栄一さん

「PL・NDフィルターの上手な使い方」（仮題）

- ★ 3月12日(土) 定例研究会
- ★ 5月未定 定例研究会  
(候補:5月7日(土)または29日(日))
- ★ 7月9日(土) 特別研究会  
講師 萩原史郎さん
- ★ 8月6日(土) 定例研究会
- ★ 10月8日(土) 特別研究会 講師未定
- ★11月4日(金)~10日(木)  
東京支部第20回作品展  
富士フォトギャラリー銀座  
スペース1+2+3
- ★12月3日(土) 定例研究会

会場はケンコー・トキナー中野で5月のみ京橋プラザ区民館の予定です。

### 編集後記

今年も残りあとわずかとなりました。コロナ禍の中ですごした1年でした。

今回 篠原さんの寄稿文をのせる予定でしたが、ご本人の都合により中止となりました。

お詫び申し上げます。

秋にコロナが沈静化してきた時に、ちょうど志賀高原の撮影会、作品展、特別研究会、定例研究会を開催することができたのは良かったです。また海外からオミクロン株なるものが流行ってきていて油断禁物。マスク生活がまだまだ続きます。

特別研究会の林惣一さんのお話は井上さんがまとめてくださいましたが、たいへんわかりやすく良かったです。その後JPA展を見に行きましたが、さっそく実践し、まず友人の作品数点を見てから全体を見て、自分の好きな作品と撮りたい作品を見つけるようにしました。JPA展のように作品数の多い写真展には特に有効な見方だと思いました。

この写真展や本の見方ですが、林惣一さんの著書「自然風景撮影上達の早道」という本にも書かれています。この本は2015年のフォトコンの別冊で、もう販売していませんのでご存じの方もいらっしゃると思いますが少し紹介させていただきます。

### 写真がもっと楽しくなる5つの力

- 写真を何倍も楽しくする喜びの力
- 他人との違いを生む工夫の力
- コンテスト応募による競争力は上達の早道
- 写真を見る力は写真を撮る力となる
- 長く楽しめれば上手になる 継続は力なり  
心がけていることに写真雑誌や写真集を見るときに活字と一緒にみないこと。タイトル、作者の解説、選者の選評なども見ないで自分の記憶の中にその作品の良さを受け入れると同時に自分ならどう見るかを考える材料とするのです。

### 写真はスポーツだ!

写真を撮ることはスポーツによく似ていると思っています。野球のようなチームプレーもテニスのような個人プレーも全て1人の判断と行動で結果が出ます。それは写真も同じ。共通する部分をあげてみます。

- 感覚を磨いておく(しばらく撮影から遠ざかると何を撮るか とまどってしまうことがあります。感覚が鈍って体が反応しないのです。)
- 相手(相手は自然なので天候や日の出、日の入りの場所など)を研究する
- 自分の欠点を補強する(自分の短所を見つける)
- 体力も必要

最初タイトルを見たときはちょっとびっくりしましたが、読んでみると納得します。

夫の写友に80歳近いのですが毎年富士フィルム100人展に入選されていらっしゃる方がいます。風景写真を撮り続けるため毎日 階段を含めて30~40分歩くことを日課としているそうです。感性を磨くことも大切ですが、体力の維持はこれからの私達にとって1番の課題ですね。体力維持はコロナに対する免疫力を高めることにもつながります。

それでは皆様1年間支部活動にご協力いただきありがとうございました、

お体に気をつけて良い新年をお迎えください。

(文責 戸張伸子)

